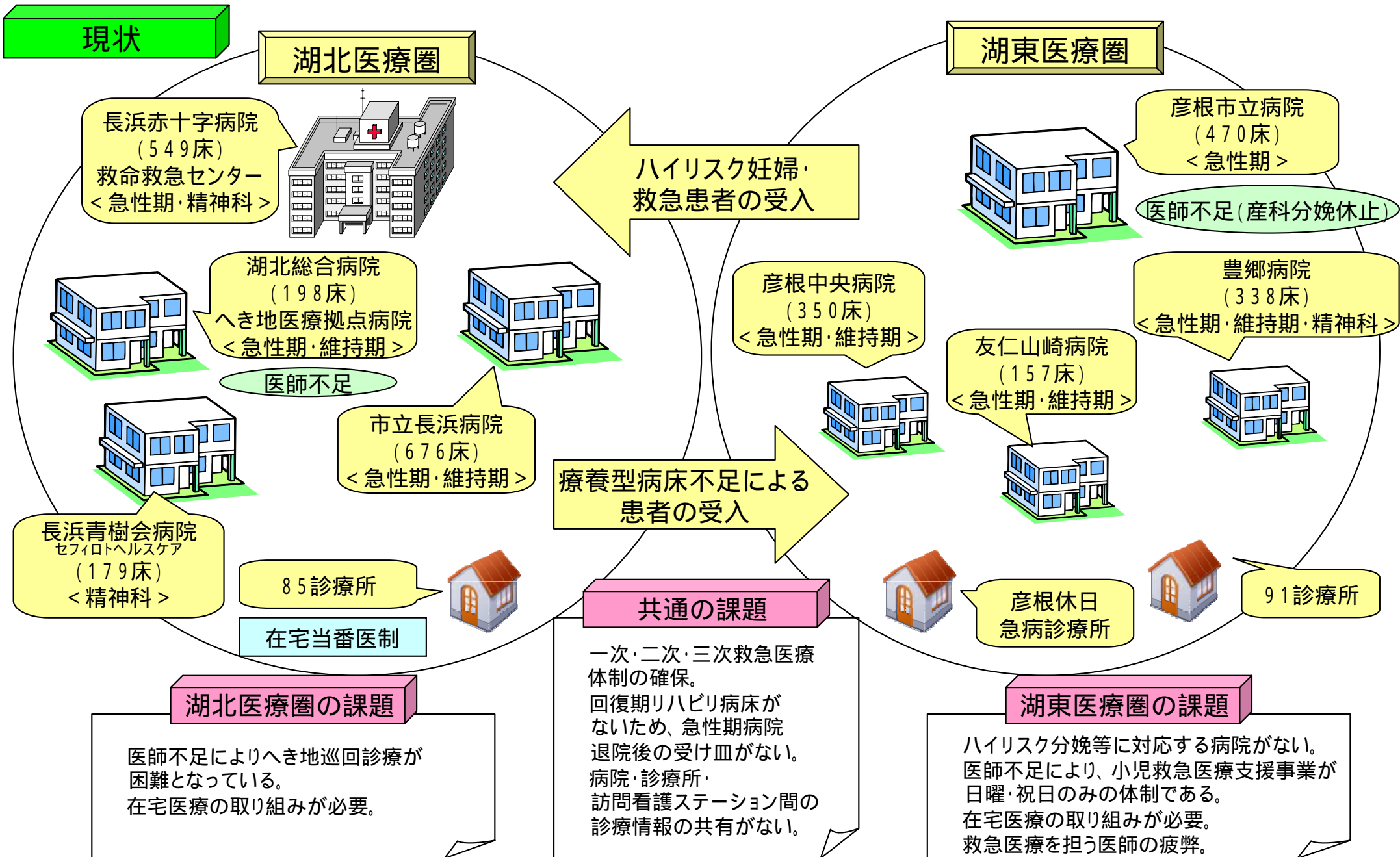
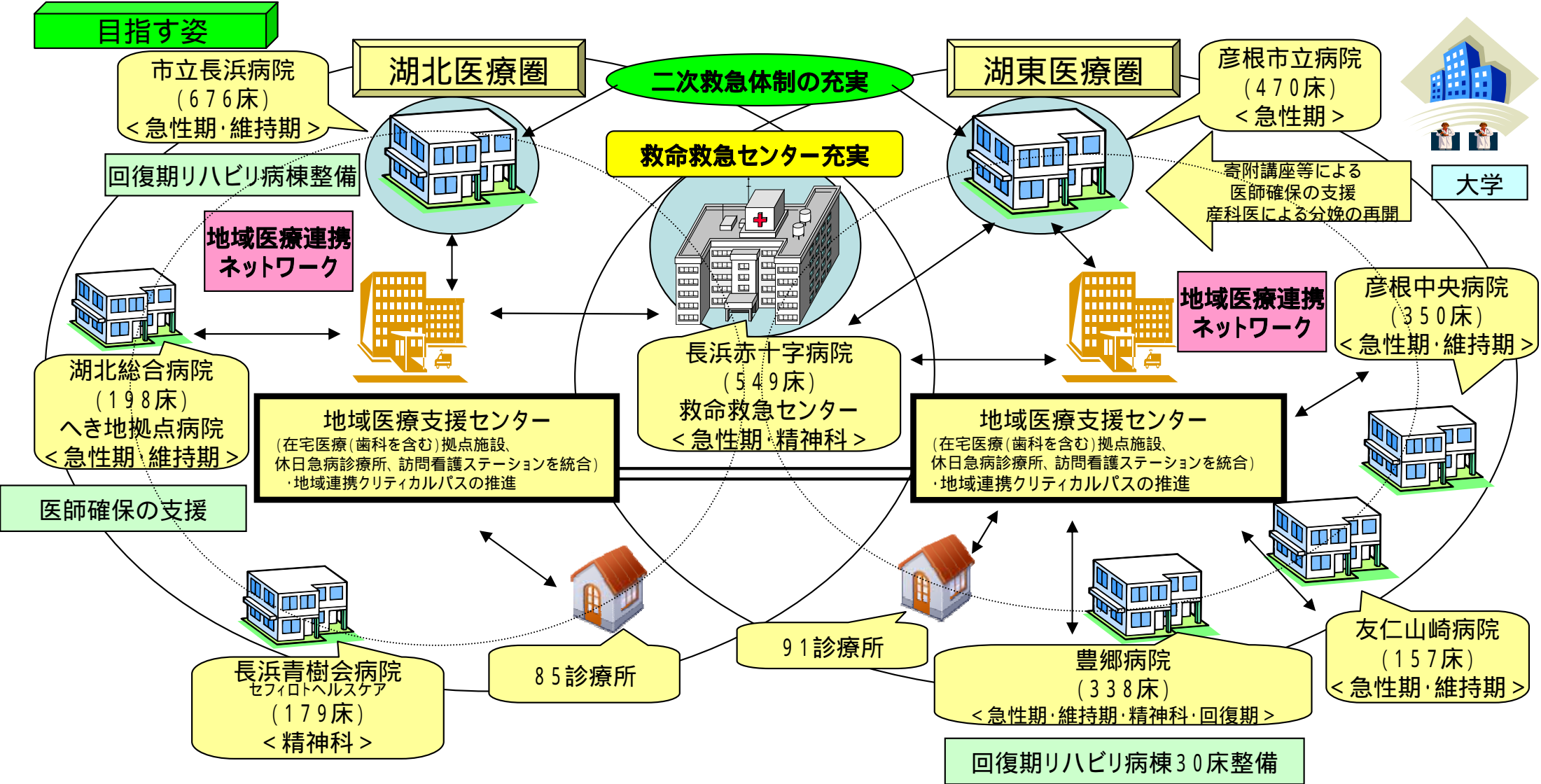


# 湖東・湖北医療圏 地域医療再生計画(医師確保・機能分化・連携に重点)



# 湖東・湖北医療圏 地域医療再生計画(医師確保・機能分化・連携に重点)

## 目指す姿



医師確保:大学の寄附講座等による産科医師による分娩再開、へき地拠点病院の充実  
 地域医療連携ネットワークによる連携体制の構築:地域医療支援センターの整備  
 一次・二次・三次救急医療体制の充実  
 回復期医療を担う病院の確保:回復期リハビリ病床の整備  
 病院内・病院間の機能分化の促進

# 湖東・湖北医療圏における課題を解決する方策

## 1 課題を解決する方策

課題 : 湖東医療圏では、現在休止している彦根市立病院の産科医師の確保による分娩の再開が最大の課題となっている。

ハイリスク分娩は、地域周産期母子医療センターである湖北医療圏の長浜赤十字病院が担っているが、湖東医療圏からの受け入れが増大している。

目標 : 湖東医療圏の周産期医療体制の整備・充実を図るため、滋賀医科大学に寄附講座を開設し、彦根市立病院の産科医師を確保し、分娩の再開を図る。

対策 : 滋賀医科大学と連携した医師確保システムの構築（1億6,600万円）（県全体事業に計上）  
（1）新生児・周産期医療を担う医師の確保のため、滋賀医科大学に寄附講座を設置する。

課題 : 一次救急医療体制が十分でないことから、二次救急、三次救急を担う医療機関の病院勤務医に過重な負担がかかっている。

目標 : 一次、二次、三次救急医療体制の充実を図ることで救急医療の受け入れを確実なものとする。

対策 : 救急医療体制の充実（2億9,500万円）  
（1）休日急病診療所の整備・充実により、一次救急患者の受け入れを強化する。  
（地域医療支援センター設置事業に含む。）  
（2）二次救急医療、三次救急医療の受け入れを確実なものとするため、迅速性、効率性、安全性などを有した、精度の高い医療機器の整備を行う。

課題 : 湖東・湖北医療圏には、回復期リハビリテーション病床を有する病院がないため、急性期病院を退院した患者の受け皿がない。

目標 : 入院から在宅療養への円滑な移行を図るため、患者の病期（急性期、回復期、維持期、在宅を含む療養期）に応じた適切かつ効率的な医療が提供できる体制の整備を目指す。

対策 : 回復期医療等を担う病院確保事業（5億3,000万円）

回復期リハビリテーション機能を担うための施設整備に対して補助を行う。

課題 : 一次救急医療、在宅医療（歯科を含む）、訪問看護ステーション、薬局、地域連携クリティカルパス等の地域医療連携の取り組みを推進するための体制整備が必要である。

目標 : 地域の医療資源の役割分担（機能分化）と連携を図るため、湖東・湖北医療圏に総合的な機能を備えた拠点施設として、地域医療支援センターを整備する。

また、歯科、薬剤管理を含めた在宅医療拠点施設、訪問看護ステーションの機能を総合的に備えた拠点として、在宅医療、地域連携クリティカルパスの取り組みを推進していく。

あわせて、病院、診療所、行政等が連携し、一体となった取り組みを進めるため、地域医療推進連絡協議会を設置し、効率的な運営を図る。

対策 : 地域医療支援センターの設置事業（6億円）

- 課題 : 湖東・湖北医療圏とも、病院、診療所、訪問看護ステーションおよび薬局間の診療情報の共有がない。
- 目標 : 湖東・湖北医療圏の各病院と地域医療支援センター、診療所をネットワークで結び、診療情報の共有化を図り、切れ目のない医療提供体制を確保する。
- 対策 : 地域医療連携ネットワークの構築（2億3,000万円）  
（1）地域の医療機関間の連携を図り、質の高い地域医療を実現するため、診療情報等の共有化を図るためのシステム等を導入する事業に対し補助する。

- 課題 : 県内の病院勤務常勤医師数の減少が深刻となり、へき地医療等の体制の確保に大きな影響を与えている。
- 目標 : へき地拠点病院への医師確保の支援。
- 対策 : 支度金制度の支援（800万円）  
非常勤医師雇用への支援（1,200万円）

- 課題 : 地域医療再生計画の推進
- 目標 : 医療関係団体、関係大学、関係市町および県で構成する（仮称）「湖東・湖北地域医療推進協議会」による協議を踏まえて、湖東・湖北医療圏で実施する事業に取り組み、医療課題の解決を図る。
- 対策 : （仮称）湖東・湖北地域医療推進協議会の設置・運営（1,000万円）

## 2 地域医療再生計画終了時の姿

大学の寄附講座等による医師確保対策により、湖東医療圏において、産科医師による分娩の再開を図ることができる。

二次、三次救急医療体制の充実を図ることにより、救急患者の受け入れを確実なものとするることができる。

回復期リハビリ病床の整備により、急性期、回復期、維持期の役割分担の明確化が図れる。  
病院と診療所等の連携ネットワーク体制の構築により、切れ目のない医療提供体制が図れる。  
支度金制度への支援や非常勤医師の活用等によるへき地拠点病院の医師確保により、へき地医療体制の充実が図れる。